

て職業者は産業に依り労働組合が組織されると共に  
地方に於ては各労働組合の連絡機関が作られつゝあつ  
た。此の連絡機関は第一革命の際中央局と呼ばれた  
ものである。

労働者の間に組合を組織し、組合に依つて経済闘争  
を遂行せんとする欲求するは頗る熾んであつたもの  
で、労働組合は未だ若く餘り組織立つても居ないので、  
労働者は組合と提携して行動し又雇々組合に代つて行  
動せねばならなかつた。第二革命の契機に於ける軍制  
政治の倒壊は資本家階級に對する強烈な経済的闘争の  
結果となつた。各産業各工場間には労働者は、貸  
金の増加、時間短縮、罷業期間の支拂等の多くの要  
求を迫つた。労働者は閣僚局や守護委員會や、労働取  
引所等を設立し、一日八時間労働制を規定し、資本家  
に對つて應付的手段を講じた。更に自衛兵會は當時の  
經濟激に於て日見ましき奮闘振りを示した。

農階級の態度に確らなび懸けなつた、そして、  
小作の中に十三割の貸借要求といつたやうな突飛な  
ものがある。此等の點から見ても、労働者の自覺の程度  
が解かる。また此の地方は地理的に見て濠洲平原の中  
心であつて、農産物若くは農村の副産物の産物が豊か  
である爲めに、他の地方に比して物價が低廉である。故  
に労働者が低い賃銀に満足して居る。これも労働者の  
無自覺の重大原因である。官憲も隨う神經過敏で、  
些細な事で無理難題を押し付ける。

斯の如くに資本家の専横や官憲の無反省や一般無産  
者階級の無自覺中に在つて種々な嘲罵を省つゝ雄  
しく叫んで止まないところの名古屋新聞主筆小林精  
川氏を思はげに居られない。氏を中心として常に壓迫  
濠洲の環境の中に於て資本家の各名目労働者協會と云  
ふ此の地方に於ての始めの而して無産労働者の唯一の  
一般的労働組合が生れた事は名古屋地方の労働者の爲